



J A U W

F U K U O K A

(一社) 大学女性協会
福岡支部会報
2019.4.20
発行

第 41 号

第 57 回通常福岡支部総会

日時： 2018 年 4 月 22 日 (日) 11:30 - 14:30

会場： 「梅の花」 天神

出席： 13 名 委任状： 14 名

I. 総 会 11:30~12:10

1. 開会の言葉 (総会成立審査報告)

司 会 : 相良かおる

2. 支部長挨拶

支部長 : 青沼美撫子

3. 議事

【報告事項】

- | | |
|------------|------------|
| (1) 事業報告 | 書 記 : 矢田和子 |
| (2) 決算報告 | 会 計 : 桑原洋子 |
| (3) 会計監査報告 | 監 事 : 石田雅子 |

【審議事項】

- | | |
|--------------|------------|
| (1) 役員の承認 | 青沼支部長 |
| (2) 事業計画 (案) | 書 記 : 矢田和子 |
| (3) 予算 (案) | 会 計 : 桑原洋子 |
| (4) その他 | |

4. 閉会の言葉

司 会 : 相良かおる

II. 食 事 12:30~14:30

III. 新会員自己紹介・記念誌について

青沼美撫子#

#

#

4月の支部総会は、前年度の活動と決算が報告され、今年度の事業計画と予算が審議され決定しました。活動報告では、支部会報誌をもとに説明がありました。続いて新入会員：久保田千景さん・小野明子さん・井上宏子さんのご挨拶がありました。久保田会員においては、7月の例会で講演をされます。その後、JA U W 創立 70 周年を迎え記念誌発行についての経緯とともに「大学女性協会と私」の原稿依頼、今後の予定について説明がありました。

豆腐専門店での食事をしながらの意見交換会でも本部役員関係者との懇親会の話や会員拡大ワークショップ「JA U W 創立 70 周年を迎え、大学女性協会の発展と社会的発展に向けて会員の輪を広げる活動について」の話など青沼支部長や矢田和子会員などから伺い興味深く聞くことが出来ました。会報誌も発行され、会員の皆様の日頃のご活躍を知ることが出来ました。昨年度の福岡支部の行動計画である会員の一割拡大を達成されたことがわかりました。目にも楽しく、美味しいお料理と皆様との楽しい一時を過ごし、心地よい刺激を頂きました。ありがとうございました。

(松藤泰代)

第7回定時会員総会

		日時：5月12日（土）～14日（月）	
		会場：（浜松）中島屋グランドホテル 3・4F	
支部長会	5月12日（土）14:00～17:00	出席：青沼 美撫子	
懇親会	18:00～20:00	青沼 美撫子	
会員総会	5月13日（日）9:00～16:30	青沼 美撫子	
研修旅行	5月14日（月）9:00～16:00	青沼 美撫子	

昨年、横浜の第6回定時会員総会には、支部長会と会員総会のみ出席、懇親会も研修ツアーにも参加しなかったが、福岡支部への質問があったと聞き、今年は全部出席した。

支部長会は21支部長の活発な意見が続出し、本部主導で無事終了。

続いて出た懇親会では、9品目の特産料理は美味しかった。

静岡支部会員の上川陽子法務大臣の祝辞は弁説さわやか、内容豊富で余すところ無く語られ流石と思った。アトラクションは多様でスキルの高い道化師パフォーマーの「わっしょいゆーた氏」の一輪車に乗っての芸に目が離せなかった。

13日の会員総会は出席者106名、議決権行使書提出者370名で総会成立。議事、JAUW公開シンポジウム、会員拡大の件、「70周年記念基金」について、その他で話し合わせ閉会となった。昼食会場では由緒ある静岡児童合唱団（創立75周年、海外演奏の実績を持つ）の天使の歌声を聴いた。

公開講演会は、静岡出身の歴史時代小説家、植松三十里氏の著書「辛夷（こぶし）開花」の主人公、広瀬常の半生を紹介された。

外交官や初代文部大臣森有礼夫人である彼女のパイオニアとしての多くの労苦と国際社会で活躍した女性として評価したいとのこと、私は植松氏を知らなかったので、福岡に帰り、図書館で借りて一読した。

分科会では第4：広報事業＋会員拡大 を選び広報活動を聞き、会員拡大ワークショップを開いた支部として有意義で会員拡大につながったと述べた。

14日は「世界遺産の街 富士・富士宮を訪ねる」日帰りバスツアーに参加した。快晴の中、バスの窓から富士山を見ながら、製紙業の体験工場見学ではプローチを作った。昼食は牧場レストランで、新鮮なミルクやアイスクリームが格別だった。（ここで撮った記念写真はJAUW会報の表紙に掲載済み）。白糸の滝、浅間大社を巡り、2017年12月に開館したばかりの「静岡県富士山世界遺産センター」では富士山の知識のみならず屋外で真正面から見る富士山が見事だった。66歳の時3,776mの富士登山をして、御来光を見たことなど思いだし、とても懐かしかった。

（青沼美撫子）

6月公開講演会

講演「ユニバーサル都市・福岡をめざした
バリアフリーのまちづくり」
講師：牧園典浩氏（福岡市保健福祉局政策推進課
バリアフリー推進係長）

日時：6月24日（日）13:30～15:30
会場：福岡市西市民センター3F
第3会議室
出席者：会員6名 他5名



福岡市の目指すバリアフリーのまちと聞いたら、道路の段差解消とか、点字ブロックを設置した歩道などが思い浮かぶのですが、この講座は福岡市の未来像にも踏み込み街全体としての理念にまで及びました。福岡市民と福岡の街を利用する人々はそれぞれに年齢、性別、特性、障害の有無や程度、国籍までが異なっていますが、雑多な個性のだけれども、快適に自分らしく生きられる街づくり、これが福岡市の目指すユニバーサル都市でした。

そのためには、様々な人が生活することを前提に障害のない設備や建築、道路など固定されたハード面の整備などにとどまらず、自分と異なった特性や習慣を持つ人に対しても差別なく受け入れる人々の心情、ハートの豊かさ、例えば歩く速度の遅い老人や幼児の手を引いた母親に対してもゆっくり待つことができる心の持ちようというソフト面も大切なことなのです。

まさに、「みんなにやさしく、みんながやさしい都市づくり」です。

この理念の浸透をめざして、小中学校はじめ機会をとらえて啓発の講座を開いています。

そうそう、街に出れば、道路の段差の解消、点字ブロックの工夫、案内表示の多言語化、ノンステップバス、横断歩道の音楽など一歩ずつ改善されていることに気が付きます。

ところで、歩いていて、ちょっと一休みしたい時、道路にベンチがあったら、老人、障害のある人、子供連れなども街に出やすい。そんな声を背景に始った「ベンチプロジェクト」事業。寄付をすると氏名が刻まれたベンチが歩道脇に設置される事業です。

行政が取り進む一方で、そこに集う一人として違いを受け入れる余裕ややさしさ、誰かのために役立つことが生きがいと思うこと、このことがユニバーサル都市を目指すにはとても大切であると気付いた講演会でした。



(矢田和子)

7月公開講演会

講演「救命救急における家族看護」

講師： 久保田千景 会員

日時：7月22日（日）13:30～15:30

会場：早良市民センター3F 第2会議室

出席者：会員11名 他5名



大変暑い日ではございましたが、皆様にお集まり頂き、「救命救急における家族看護」についての講演をさせていただきました。

私が救命救急で看護師として対応した患者様の多くは、生死をさまよっている状況でした。そしてそのご家族様は、悲痛な思いをされている状況でした。つまり、患者様もご家族様も大変危機的な状況でいらっしゃいます。

看護師として、患者様のみならずご家族様にも看護を提供することが必要だという思いから病院の救命救急センターでの勤務時や大学院で家族看護について研究を行い、その結果についてお話しさせて頂きました。ご家族様は、大変な状況にある患者様に関する情報を看護師から得たい、患者様の側にいたいと思っていること、面会時間に関しては患者様の状況を鑑みて必ずしも長時間の面会時間を望んでいないこと、看護師は家族にも看護を提供したいと思っているが難しく思っていることなど結果が得られ、ご家族様への看護の提供のために、看護師として知識をつけていく必要があると思います。

参加者の皆様からのご質問を頂き、あらためてご家族様にとって心地よい看護が提供できる様、引き続き研究を続けて参りたく思っております。



(久保田千景)

9月公開講演会

講演「地球温暖化対策

～暮らしへの影響を知って省エネから始めよう～

講師：大沼 貞光氏 (福岡市環境局・エネルギー対策課)

日時：9月9日 13:30～15:00

会場：福岡市西市民センター
3階第2会議室

出席者：会員7名 他7名



まだまだ暑さの残る中ではございましたが、この暑さのもとである地球温暖化の対策についてお話をいただきました。そもそも地球温暖化とは何か、それがどう暮らしへ影響を及ぼすのか、それに対して福岡市はどのような対策をとっているのか、私達にできる省エネ対策、日本のみならず世界はどのような取り組みを行っているのかについて分かりやすく解説されました。

私達が暮らす日本では、100年あたり1.19度気温が上昇しており、これは世界の平均より上であること、福岡市ではヒートアイランド現象が加わりこの100年で平均気温が3.1度上昇しているとのこと。福岡市における熱中症搬送者数は年々増加傾向にあります。平成28年12月に「福岡市地球温暖化対策実行計画」が策定され、福岡市がめざす姿は「エネルギーを”創る”、そして”快適に過ごす”福岡の心地よい都市づくり!」です。そのために住宅用エネルギーシステム(ソーラー等)設置、電気自動車購入補助等を行っています。エネルギー別家庭からのCO₂排出量は電気が一番多いということに参加者は驚きを隠せず、身近なところから節電をしよう!という認識を抱きました。質疑応答では特に原子力発電のことが挙げられていました。日本のみならず、地球温暖化対策は国際的なテーマであり、私達も出来ることから始めていきたいと思いました。



(久保田千景)

男女共同参画で地域力 UP! アミカスネットによる講演会

「世界の女性議員急増の謎に迫る」

- I 寸劇 「半分、青い」 日時：10月20日（土）14：00～16：00
II 講演会 「世界の女性議員急増の謎に迫る」 会場：アミカス 4F 大ホール
講師：申 琪榮さん（お茶の水女子大学准教授） 出席者：3名 他 178名
III 「台湾クオータ制の現地報告」
講師：王 貞月さん（西南大学非常勤講師・国際文化博士）

I 寸劇「半分、青い」は、福岡はじめ女性議員の少なさを円グラフで示し、博多弁でわかり易く演じ、講演前の理解の役を果たした。

II 2018年5月に女性議員を増やすことを目的とする「政治分野における男女共同参画推進法」が制定された。

これを機に、政治が難しいものではないという市民の理解を深め、地域から「推進法」の実行力を高めたく、国際的なジェンダー交流化の動きや、クオータ制に詳しい政治学者の申 琪榮さんを招いた。

III 台湾出身の王貞月さんは、今春福岡から台湾へ20名のスタディツアーに同行し、女性議員との交流の報告があり台湾女性議員の活躍で評価されクオータ制の果たす役割は大きいとの説明があった。

福岡支部の相良かおる会員が、内閣府のWebサイトから資料をコピーされ、出席者全員に配布され理解の一役をかった事もお伝えしたい。（青沼美撫子）

11月例会 一日ツアー「椿花山武蔵寺巡りと食事」

- 九州随一の古寺 日時：11月16日（金）11:30～16:00
二日市 椿花山武蔵寺巡りと昼食会「銀の壺」 場所：二日市 武蔵寺
出席者：会員9名



天気予報では、曇り夕方には雨、とのことだったが自宅を出るころの空は、今にも雨が降ってきそうな雲行きで、私は傘を持ってでかけることにした。集合場所が変更になったこともあり、いつもより早めに出発、博多バスセンター3階高速バス乗り場へと急いだ。きっと私が一番乗りだろうと思いきや、すでに和栗さんが到着されていて「誰も来ないので、ここだったのかしらと心配していたところよ」と安堵のお顔。「さて今日はどこ行きに乗るのでしょうか？」と私。「日田行きと聞いたわよ」

などと呑気な会話をしているうちに青沼さんが到着。「（桑）日田行きに乗って、どこで降りるのでしょうか？」「（青）筑紫野みたいよ、西原さんがこれが一番近道とおっしゃたから、お任せなのよ」・・・いよいよ西原さんも到着され、人数も揃ったらしく10時26分発日田行き高速バスに乗ることとなった。



西原さんが先頭で私が最後に乗り込んだ。バスの一番前に座ってらっしゃる西原さんのお隣の席が空いていたので「西原さんの揺れ止めになりますから、お隣にいいですか？」と言いながら座ったら「あら、揺れ止めは私の方よ」と返された。

「私、武蔵寺は初めて行くのですが、九州で一番古いお寺なんですか」と一言お尋ねしたら、「そうよ福岡はね、古いお寺がたくさんあって、奈良や京都の比じゃないのよ！奈良や京都のお寺は平安、鎌倉時代に出来たものだけど、福岡のお寺は、

その前に出来たお寺が多いの！ただ知名度が低くて！みんな奈良や京都の方ばかり注目してるでしょ！ほんとは福岡の方が歴史があるのよ！」「へーそうなんですかー。…ということは奈良や京都が栄える前からこちら九州が栄えていたとなると、卑弥呼伝説に近畿説と九州説があるけれど、九州説には強味ですよね。」「そう私は九州と思うわ」と西原さんに余計な事まで言わせてしまった私だった。西原さんは後ろに座っている5名の方々にも聞こえるようになりかなり大きな声で説明して下さっていた。そう、研修会はもう行きのバスの中から始まっていたのだ。一番近いところで聞いた私は幸運だったが、もう一人幸運だった人がいる。それは運転手さん。運転手さんは博多バスセンターから筑紫野までの40分の間、真後ろから流れる西原さんの講座を聞いたのだから、一気に福岡のお寺通になったに違いない。高速バスはいよいよ筑紫野に到着。バス停が高架にある為かなり急な階段を降りた。食事処（銀の壺）はそこから歩いて1分のところにあった。その1分間に私の携帯に石蔵さんから電話が入り、「二日市の駅で待っているけれど誰もこないわ」と。「えっ集合場所が変更になったのを言うのを忘れてた！」それは当日の担当の私と青沼さんの責任だった。ごめんなさい。石蔵さんにはタクシーで来ていただいた。

店の中では梅居さんが先に到着されていた。11:30には参加者全員（9名）が揃ってランチが始まる。2,000円の和風懐石膳でごはんは釜飯、デザート・コーヒーまで付いたフルコース。こんなお値段でいいのかしらと思われる程たくさんだった。満腹になったからには、さあ、ひと運動！とばかりにそこから武蔵寺までの坂道を15分くらい徒歩で登る。寺の山門をくぐるとすぐに本堂に案内された。靴を脱いで本堂に上がると住職の井上隆照氏が待っておられて「本堂といっても意外と狭いでしょう。もともと僧侶の修行の場ですから、これくらいあれば充分なのです」と気さくに話しかけてくださった。武蔵寺は天台宗の寺で本堂には薬師如来がまつられていること等、堂内の説明をしていただいた後、般若心経を唱えられた。住職の読経にあわせて西原さんと石蔵さんも読経され堂内は益々清められた。その後、集会室にて武蔵寺が創建されたのは645年（大化1年）頃であり、創建にかかわった人は藤原鎌足の子孫で藤原虎麻呂であろうとのこと。やはり、藤原虎麻呂は初代の太宰権帥（だざいのごんのそち）の位にあった人であろうと言われてることなど、虎麻呂にまつわる伝説をたくさんお聞きすることができた。



（桑原 洋子）

新年会とミニバザー

新年会とミニバザー
卓話：「イタリア・トリノ留学」
城崎 由紀 会員

日時：1月20日(日) 11:30～14:30
場所：西鉄グランドホテル
地下1F「桃林」
出席：会員14名



厳しい寒さが続いている中ではございましたが、新たな年の始まりを迎えるべく、新年会とミニバザーを開催いたしました。青沼支部長からご挨拶を頂き、また福岡支部創立70周年記念誌「JAUWと私」の発刊についてご報告及び配布が行われました。会員の相互理解とこれまでの活動の一端を共有し、これからの活動の一助となることを目的に、青沼支部長を先頭に発刊が進められまし

た。

卓話として、城崎由紀会員より、イタリア・トリノにある大学医学部へ留学された際のお話を皆で共有いたしました。イタリアの王様が住んでおられた町で、アンデス山脈を見ながらのご留学とこのことで、神経の発生・発達についての研究・勉学に勤しまれながら、趣味の合気道をイタリアでも楽しめたとのことでした。また、留学先では寿司など日本料理を手作りされ振る舞われたとのことで、留学により学問を含め多様なご経験をされたことを興味深く聞かせて頂きました。

ミニバザーでは、会員から多くのお品物が集まり、見事完売いたしました。ご協力ありがとうございました。

女性リーダーの育成を目指し、女性の高等教育の向上の一旦に触れることができるという、大学女性協会の目的にふさわしい新年の幕開けとなりました。国際協力と世界平和のために私達ができることは何かを模索しながら、学びや経験を深めていきたいと思えます。



(久保田 千景)

会計監査役員会

- 1 2018年度会計監査
石田雅子 監事
桑原洋子 会計
- 2 役員会 青沼美撫子ほか役員

日時：2月17日(日) 11:30～13:30
場所：西鉄グランドホテル
地下1F「マンジャーモ」
出席：役員6名

会計監査を終え、ランチ後、記念誌発行に関する報告及び「2019年度大学女性協会福岡支部事業計画」について、また、支部総会のお知らせ、委任状について話し合いました。

(久保田千景)

3月勉強会

講演「簡単便利！

災害時の食事についてちょっぴり学びませんか？」

講師：松藤 泰代会員

日時：3月3日(日) 13:30～15:30

場所：早良市民センター3F

第2会議室

出席：会員8名 他9名



「天災は忘れたころにやってくる」とよく言われるが、昨今の日本は「天災は忘れる間もなくやってくる」というのが正直なところだ。

平成最後のひな祭りの日、「思いがけない災害時の食生活はどうすればよいか？」というテーマでのお話と実習が開催されました。講師の松藤会員は、純真短期大学（食物栄養学科）にお勤めです。

まず、災害時の持ち出し品、水、簡易トイレ用品、缶切り、笛などは地震の際、一番丈夫なところである

玄関に保管しておき、すぐにドアを開けて出られるよう準備しておくこと等々を学びました。



次に、会場のテーブルには、災害食といわれる（白飯・パスタ・カレー・乾パン・水など）が並び、それ以外にも、コンビニなどで調達できるもの（缶詰、フリーズドライのスープやそうめん、お菓子など）も利用できることを学びました。

実習は、ウェットティッシュで手を拭き（衛生管理の一環）調理を始めました。

講師の「味を追求する姿勢」は災害時においても発揮され、お湯の温度、量、時間、袋の閉め方など、本当に科学的根拠に基づき各テーブルで「美味しい」「美味しい」との声が上がりました。ポ



テトのお菓子にお湯を入れてかき混ぜ一定の時間を置くと、あら不思議、ポテトサラダ風の中身となります。私も初めての体験でした。

皆で賑やかに舌鼓を打ちましたが、最後に「ローリングストック法」も学びました。

賞味期限を確認し、期限の近いものを消費し常に最低一人3日分くらいを確保しておくこと。大変ためになる楽しい一日でした。

追記：松藤会員より送られてきた「講習後のアンケート」より一部

「災害食のイメージが変わった」、「新たに準備しようと思った」、「楽しくいい勉強になった」「災害食が進化している」等々でした。

（石蔵幸代）

船津桂江さんを悼む

「交流を繰り返した40余年、船津さまを偲ぶ」

西原そめ子

船津さまのご訃報に接して驚き、且つ心からご冥福をお祈り申し上げます。

貴女さまとの出会いは昭和40年代、古い話です。「消費生活コンサルタント研究会」の月例会の席上でした。2人共30代で、同窓の4年先輩と知りました。その頃は多出する消費者問題に保護法一つない時代とて、市や県から委嘱を受けたコンサルタントとして消費者相談窓口担当や消費者啓発・教育講座の講師を務めつつ、国や行政に保護法制定を働きかけておりました。そんな10数年、法整備も進み消費者行政も軌道に乗り、「コン〜協」も役割を終えたと組織を発展的に解散、お互いの交流もしばし途絶えました。

再会は50代、大学・短大の経済・流通経済・生活経済学者で構成する消費経済学会九州部会会場で「アウお久しぶり」、10数年ぶりの邂逅でした。何度か学会の帰路をご一緒し、非常勤ながら二人共消費関連の講座を持ち、著書執筆など共通の話題も多く、久々のお喋りを楽しみました。船津さまは当時、福大の大学院に席を置く傍ら、家裁調停員や書道教室の主宰など、多方面のご活躍を知り、私は敬服しました。

再々会は更に10数年後の70代半ば、JAUW 例会の席上でした。私もやっと仕事をリタイア、久々に出かけると懐かしい顔があり「ご無沙汰してます」。その頃の福岡支部は翌2007年にJAUW 全国総会の福岡開催が決定し、皆テンヤワンヤです。船津実行委員長から私は早速、佐藤・松村両先輩と3人で会計の仕事を仰せつかりました。そして約半年に亘る会計業務（総数180余名の会費徴収、420万円余の入出金、予算・決算報告書作成）を担当しました。総会は全支部員の協力で無事終了。しかし、直後に、船津さまは過労ゆえか足を骨折、何年かの療養を余儀なくされました。その後は再びお元気になれましたが、しばらくお会いしなかった矢先のご訃報でした。私は急な所用でお詣りに行けずゴメンナサイ。

振り返ると船津さまのご交誼は、14、5年毎にステージを変えつつ交流を繰り返す40ウン年でした。何れ私もそちらの世界に行きます。その時はまた、新しいステージでお会いしましょう。それまでは向こうでお元気に……。

「育てていただきました」

和栗方子

福岡市南区平和町の坂の途中、ピンクの塀が目印の船津さんのお宅へは何度も訪問しました。

高齢化社会の問題をテーマに全国セミナーが開かれましたが、それに福岡支部も参加することになり船津さんのお宅へ集められ、皆で真剣に勉強したのです。当時私は娘が残して行った車に乗りはじめたばかりでしたが、女子大その他へ資料集めに使い走りとか、青木怜子会長が来られた時は市内を案内するなど（初心者マークはまだない時代でしたので）お蔭でどうやら乗れるようになりました。

そんなこんなの中で否応なくJAUWにひき込まれて行きました。その研究成果を持って全国大会にも同行させていただきました。その内支部会の会場は公共の場所になり、最後にお元気な姿にお会いしたのは婦人会館「あいれふ」でしたね。膝がお悪いとかで杖を

ついていらっしゃいました。早く快くなられるようにと祈っておりましたのに残念ですが致し方ございません。

社会人として私を育てていただいた方です。

ご冥福をお祈りいたします。

「船津桂江様を偲ぶ」

榎谷紀子

「華やかな方」というのが私の第一印象でした。

平成6年に私が入会致しました時の支部長は船津様で何も分からない私に、あれこれとご親切にお教え頂いた事を懐かしく思い出して居ります。

「一歩先を歩く」をモットーに常に新しい事へのチャレンジを考えていらした様に思います。

実行力に長け、リーダーシップの取れる方で、慎重乍ら速やかな決断力をお持ちでした。その上、天性の明るさで人々を引きつけ、和ませる魅力溢れる方でいらっしゃいました。

今は、この恵みの出会いに感謝し、ご冥福をお祈りする次第です。

「旅行がお好きでした」

青沼美撫子

1998年オーストリアの小京都のような街グラーツに船津さん、児玉さん、私のJAUW会員3名と他2名（船津さんの義妹様と友人）で第26回国際大会に出席しました。会場では日本から大勢の参加者があり本部役員さんも見えていました。私たち一行5人は観光に力を入れていましたので、オーストリア、ブタペスト（ハンガリー）、プラハの名所旧蹟を時間の許す限り廻りました。ドイツ語圏で余り英語は役には立ちませんでしたが、船津さんには満足していただきました。その後、タイにもご一緒しました。昨年5月「静岡の総会で富士山を見ましょう」とお誘いしましたが、体力が無いと言われ、前年のJAUWの北海道旅行に行かなかったことを、とても悔まれました。その後手術を2度受けられ成功したのに体力が戻らないとお電話をいただきました。8月27日電話がかかってきて、来年はおろか今年も保ちそうにないと言われ信じれず、入院中の九大病院南棟に手紙を出し「そんな弱音は船津さんには不似合いです」と言っておりましたのに、亡くなられて2週間後に、ふとしたところから訃報を知り、お嬢さんと連絡がとれ、10月10日に梅居さん、石蔵さん、私の3人でお参りさせていただきました。9月18日に死去され85歳でした。とても可愛がっていただき、そのリーダーシップにはいつも驚かされていました。未だに亡くなられた事が信じられないくらいですが「安らかにお眠り下さい」と願うばかりです。いろいろありがとうございました。



第26回国際大会総会出席 みんなドレスアップ



1998・8・20 プラハ カルル橋
船津さん 65歳 青沼 59歳

<その他>

新会員ご紹介 「ようこそ福岡支部へ」

川寄 ^{みどり}若さん 九大院（農学研究科）



（一社）大学女性協会（JAUW：Japanese Association of University Women）

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟（IFUW：1919年創立）に加盟。

2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織（NGO：Non-Government Organization）です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ：<http://www.jauw.org/>

会費

入会金 1,000 円（正会員のみ）

年会費 正会員 7,000 円（IFUW 年会費を含む）

賛助会員 6,000 円

福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

国際大学女性連盟（IFUW：International Federation of University Women）

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

なお、2015年4月より GWI（Graduate Women International）に名称変更しました。

本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する

